

第8回（平成10年度）BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰作品

大丸神戸店

所在地 神戸市中央区明石町40
用途 百貨店
竣工 1927年
改修 1997年
所有者 株式会社 大丸
改修設計者 (建築)株式会社 日建設計
(設備)株式会社 双星設計
改修施工者 (建築)株式会社 大林組、戸田建設株式会社
三菱建設株式会社、北野建設株式会社
(店舗内装)大丸木工株式会社
(電気設備)ダイダン株式会社
(空調衛生設備)三機工業株式会社
(エレベータ工事)三菱電機株式会社



1995年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災は、神戸を中心とする都市部に衝撃的な被害をもたらした。あれから4年有余を経た今回、その中からいくつかの建物が復興の実例としてベスト・リフォーム部門に応募されてきた。大丸神戸店はそれらのプロジェクトの中で圧倒的に高い成功例として評価を得た。

当店は壊滅的な状況となった神戸元町地区の中心的な建物であり、この見事な再生がその後の一連の街の復興の先導的役割を果たし、市民の熱い期待に応えた意義は大きい。克服した困難な条件の中でも大きな要素は、工期であったと思われる。震災後3ヵ月で一部が営業を開始、過半を占める新設部分は実質11ヵ月、トータル25ヵ月でグランド・オープンにこぎつけており、その企画力・技術力・チームワークは特筆すべきであろう。

震災前の延床面積を確保するため、地区計画や特定街区等の都市計画手法を積極的に適用し、実現した。更に、それらを可能にするための構造計画や施工計画は周到で合理性があり、被災と云うマイナス要因を越えて新しいサービス・アビリティを向上させたと言う意味で、復興工事に新しい方向を示したものと云えよう。

再生に当たっての百貨店のデザインの方向性も明快である。無表情になり勝ちな大きな壁面に彫りの深い陰影のある表情を与え20世紀初頭を思わせる雰囲気を作り出している。コリドールも、これ程機能し成功している例は少ない。外部照明計画も単なるライトアップに終らせず街並を配慮したキメ細かな手法が成功している。そして何よりも評価されるのは単体の建物の復興だけでなく、旧居留地元町の街区全体の再創出を計ると云う大きな視点がこの計画を更にスケールの大きな成功例にしたと云える。

設備機器の更新・増設に対してもインバータ照明の採用やCO₂制御等、省エネ・省力化を配慮して実施された。熱源統合による集中管理も考慮されている。特高受変電設備は、震災前に既にオイルレス化が実施されており、その実績が異例のスピードの復興に貢献したと云える。

維持保全計画に関しても部位毎の改修・更新内容を詳細に検討して計画されており、再生された建築設備を長期的且つ堅実に維持していこうとする姿勢がうかがえる。

『神戸の灯を消すな』の合言葉のもとに集結した復興へのダイナミズムは、大丸神戸店を震災復興の記念碑として、元町のシンボルとして、永く地域の中に生き続けさせるものとなろう。